

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A 高等学校 第 2 学年 2 時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は66.6%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は29.2%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「人からどんなふうに見られているのか、自分自身を見つめ直す良い機会になった」「まだまだ自分の知らない『強み』があると思うので、探していきたい」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は4.2%

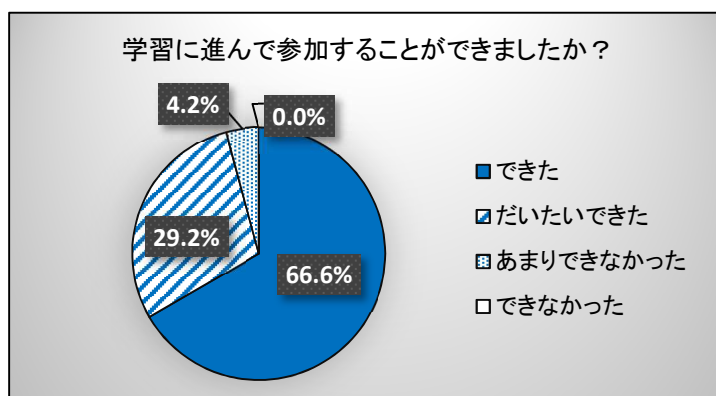


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

「できなかった」と回答した生徒の割合は4.2%

で（前頁図 1）、生徒の振り返りシートの記述には、「問題自体が別のところにあり、その解決策は自分ではどうしようもないところにある気がした。その反面、改善点を他者の視点から知ることができて良かった」とありました。学習への参加に対する否定的な感想ではなく、自らの課題解決に対しては冷静に分析しつつも、学習内容に対しては肯定的に捉えていることが分かりました。今後も、このような生徒が学習にスムーズに参加することができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 75.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 20.8%でした（図 2）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』を生かせるような話し合いができて良かった」「私は、自分は何もできない人間だと思ってしまうが、友達から見たらそうでもないことが分かった。友達の『強み』も伝えることができて良かった」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への

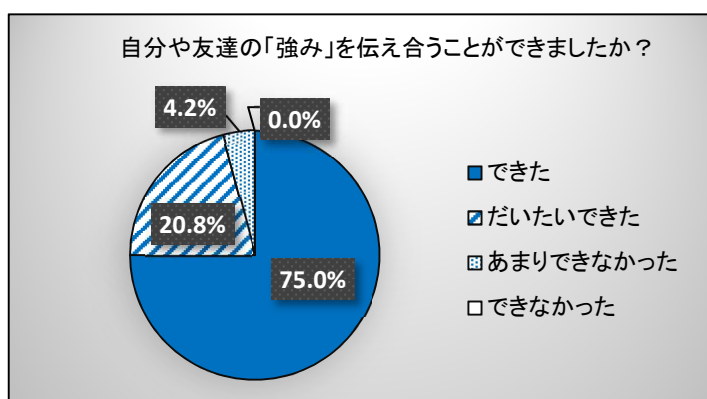


図 2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

一歩～」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は 4.2%で（図 2）、生徒の振り返りシートの記述には、「問題自体が別のところにあり、その解決策は自分ではどうしようもないところにある気がした。その反面、改善点を他者の視点から知ることができて良かった」とありました。学習内容に対する否定的な感想ではなく、自らの課題解決に対しては冷静に分析しつつも、グループでの交流活動に対しては肯定的な評価をしていることが分かりました。また、授業中の観察では、友達の「星☆いくつ」のワークシートにシールを貼ったり、「Step Up Webbing ～解決への一歩～」のワークシートに解決策のアイディアを書いたりすることができました。今後も、このような生徒が交流活動で互いの考えや気持ちをスムーズに伝え合うことができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 70.8%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 25.0%でした（次頁図 3）。また、生徒の振り返りシートには、「今日は前回よりも自分の『強み』を詳しく知ることができて良かった」「前回の授業で知った自分の『強み』の他に、新しい自分の『強み』を知ることができて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は 4.2%で（次頁図 3）、生徒の振り返りシートには自分の「強み」を知ることに関する記述はなかったものの、「星☆いくつ」のワークシートの感想には、「シールを貼ってもらったことで、自分がグループの友達に理解してもらえていることが分かった」とあり

ました。グループの友達との交流を通して感じた関係性を有意義であると捉えたり、学習を通して得た効果を感じたりしていることが分かりました。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

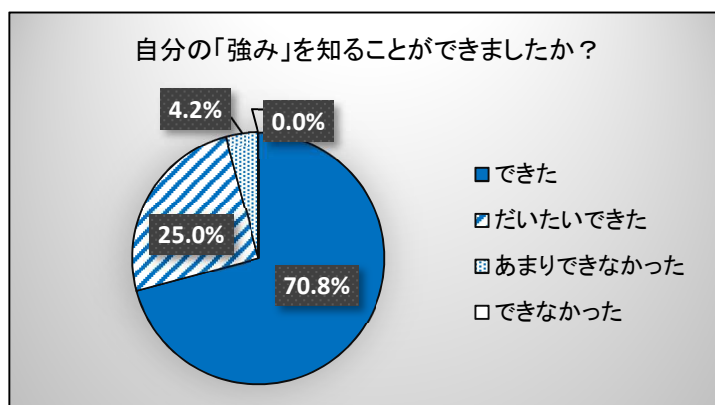


図 3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は75.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は20.8%でした（図 4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達のことを考えることができて、今まで思っていたことと違う考え方で友達と接することができて良かったと思う」「自分や友達の『強み』を知ることに伴って、互いの弱い部分も知ることができて、客観的な視点で解決法を考えることができた」という記述が複数見られました。これ

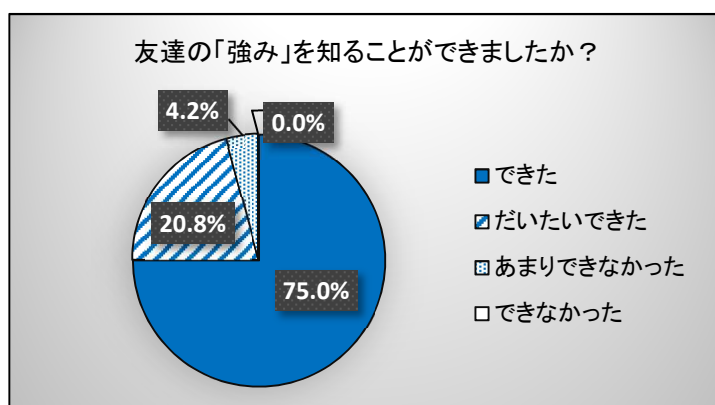


図 4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

らのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は4.2%で（図 4）、生徒の振り返りシートの記述には、「自分が気付いていなかった部分を知ることができた。その部分はそのまま持続して、苦手な面などではどんどん得意にしていけるようにしたい。自分や友達のいろいろな一面をもっと知っていきたい」とありました。学習内容に対する否定的な感想ではなく、逆に、自分の「強み」を知ることができたことに比べて、友達の「強み」を知ることができなかったことへの反省と今後の学習に対する前向きな意欲が見られました。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は54.1%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は41.7%でした（次頁図 5）。また、生徒の振り返りシートには、「自分で苦手なことの解決策を考えようと思ってもうまくいかないが、友達の意見を聞くことで『なるほど』と思うことが多く、それを生かして頑張ろうと思った」「これから自分がどうするべきかということが分かった。自分の『強み』や今日学んだことを生かして生活し

ていきたい」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。一方、「あまり思わなかった」と回答した生徒の割合は 4.2%で（図 5）、生徒の振り返りシートの記述には、「問題自体が別のところにあり、その解決策は自分ではどうしようもないところにある気がした。その反面、改善点を他者の視点から知ることができて良かった」とありました。自らの課題解決に対しては冷静に分析しつつも、グループでの交流活動を通して他者の視点を得ることができたという肯定的な評価をしていることが分かりました。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

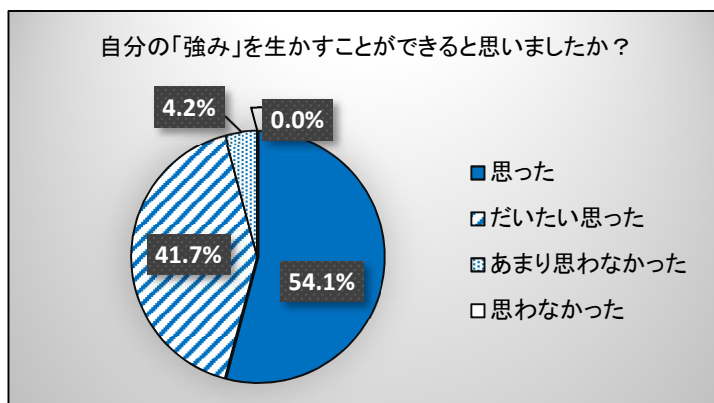


図 5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことにより、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。一方、振り返りシートのほとんどの質問項目で、「あまりできなかった」と回答した生徒がいました。1時目同様、この生徒の自己肯定感の低さやグループでの交流活動に対する警戒心等があったことが考えられます。しかし、1時目に引き続き、学習内容に対する肯定的な評価や自らの課題に対する前向きな受け止めが見られたことに加えて、1時目と異なり、回答が「できなかった」から「あまりできなかった」に変化していました。また、「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問項目で、初めて「だいたいできた」と回答していたことから、「星☆いくつ」の交流活動のように、友達に当てはまるものを選択肢の中から選んで互いに「強み」を見付けて伝え合ったり、その後に気づきや感想を伝え合う場を設定したりしたことが有効であったと考えます。これらのことから、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、友達の「強み」を見付けると同時に友達から「強み」を見付けてもらったり、それを伝え合ったりする交流活動を丁寧に展開することが重要であると考えます。また、このような生徒が学習に抵抗なく参加することができるようなグルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮に加えて、授業以外の場面でも本人の成長を具体的にフィードバックするなどの個別の言葉掛けが必要であると考えます。

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察（B高等学校 第1学年 2時目）

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は92.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は7.7%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「みんな真剣に取り組んでいて、とてもすごいと思った」「みんなが自分の悩みの解決策を真剣に考えてくれたので、とても嬉しかった」「授業で新たに発見できたことがたくさんあって、良い経験になった」「『強み』を見付けてくれたグループのみんなに感謝している」「自分と同じ悩みを抱えている人や意外な悩みを抱えている人がいて、興味深かった」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等に進んで

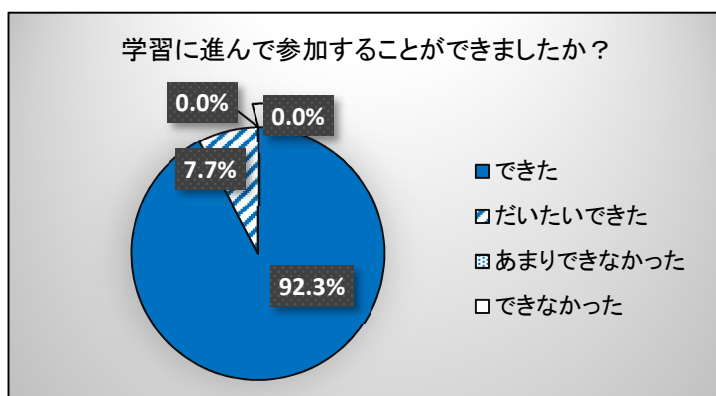


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたりしたと考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は87.2%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.8%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「ふだん、あまり話さない友達と一緒に活動をしたので、今まで気付かなかった『強み』に気付くことができた」「自分がみんなからどう思われているのかを知ることができたので、安心した。もっと違う一面も出していきたいと思った」「自分が思っている『強み』と友達が思う自分の『強み』が異なっていて、自分が周りからこんなふうに使われていたんだということが分かって安心した。みんなが考えてくれたアイディアを参考に頑張りたい」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

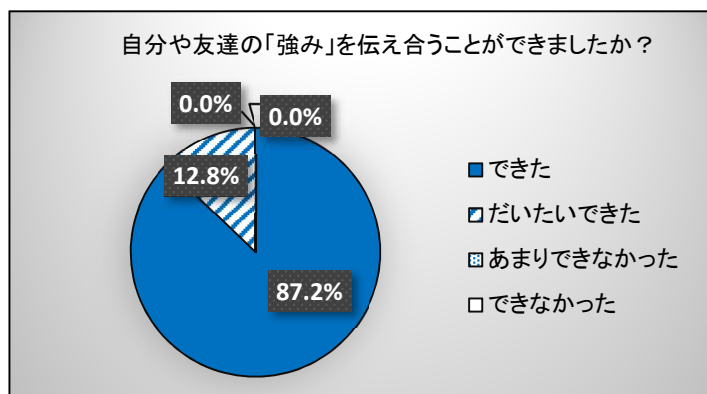


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は84.6%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は15.4%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分で思っていなかった『強み』を友達が見付けてくれて、自分のことをよく知ることができた」「自分では意外だと思う『強み』がたくさんあったので、自分を見つめ直す良い機会になった」「まだまだ自分の『強み』はあると思うので、自分で見付けてみたい」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

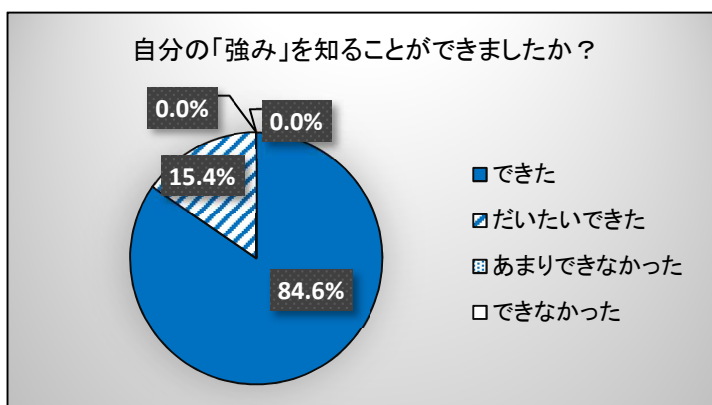


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は92.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は7.7%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の知らない一面に気付くことができ、楽しかった」「意外だったことや納得できることがあって、おもしろかった」「友達の『強み』だけでなく悩みも知ることができ、一緒に解決策を考えられて良かった」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

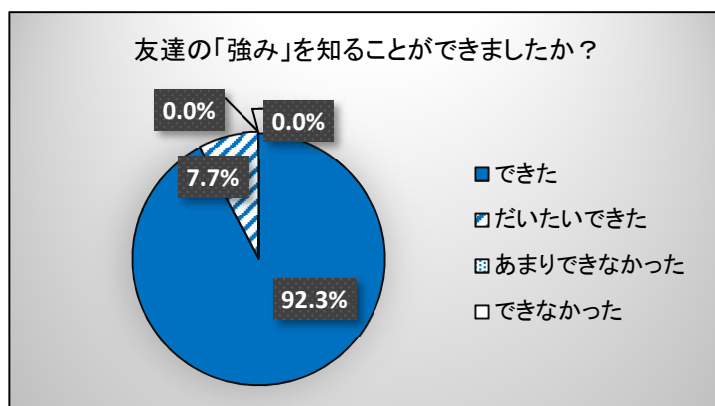


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は82.1%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は17.9%でした（図5）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』をいろいろな物事に結び付けて、考えたり行動したりしてみたい」「自分の『強み』で自分の苦手なことが改善できるかもしれないという希望をもつことができて良かった」「自分の『強み』があるのに、それを使わないのはもったいないと思った。今後、『強み』を生かせるような生活を送っていきたい」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。

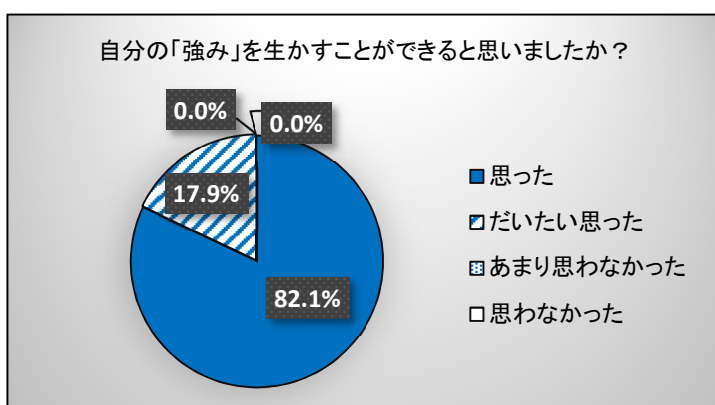


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことにより、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。振り返りシートのアンケート結果は、1時目に比べると全体的に数値の好転又は高い数値の維持が見られました。また、生徒の振り返りシートの記述から、グループで一緒に活動した友達に対して、学習に真剣に取り組んでいることへの敬意や「強み」を見付けたり「強み」を生かしたアイデアを考えたりしてくれたことへの感謝の気持ちを抱いていることが分かりました。さらに、1時目同様にグループの友達から肯定的な評価を繰り返し受けることによって安心感を覚えたり、自分に自信をもったりしたことも分かりました。

これらのことから、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、友達「強み」を見付けると同時に友達から「強み」を見付けてもらったり、それを伝え合ったりする交流活動を通して、生徒が互いに敬意を払ったり感謝の気持ちを抱いたりすることにより、学習への参加意欲を高めたり学習内容の理解をより深めたりすることにつながったと考えます。また、他者からの肯定的な評価を受けて安心感や自信を得たことにより、自分の苦手なことや悩みの解決に自分の「強み」を生かすことができるかもしれないという可能性を感じ、生かしたいという意欲をもつことにつながったと考えます。